

# 「地域のあそびば」の活動を通じて 顔見知りの輪を広げる

独立行政法人福祉医療機構（WAM）が行う社会福祉振興助成事業（WAM助成）は、国庫補助金や寄付金を財源とし、高齢者・障害者などが地域のつながりのなかで自立した生活を送れるよう、NPOやボランティア団体などが行う民間の創意工夫ある活動などに、助成を行っています。

今号では、WAM助成を活用した特定非営利活動法人子ども文化のNPO子ども劇場西多摩の取り組みを紹介します。

## 子どもたちに さまざまな体験の機会を提供

東京都青梅市にある特定非営利活動法人子ども文化のNPO子ども劇場西多摩は、「子どもたちの『文化的に生きる権利』が保障される社会」の実現を目指し、子どもたちがさまざまな文化活動や自然体験活動を通して多くの人と出会い、育っていく場をつくることに取り組んでいる。

団体の沿革としては、昭和49年に前身団体となる「多摩子ども劇場」を発足し、子どもや子育て家庭に対し、文化や舞台芸術、自然

体験などの機会を提供する活動を開始したことはじまる。地域コミュニティの希薄化や子どもの貧困など社会課題が変化するなか、平成14年にNPO法人化し、現在の法人名に改称してからは、会員を対象にした活動から、広く地域の子ども・市民を対象とした活動にシフトし、誰もが参加できる活動を展開している。

現在の主な活動では、さまざまな文化や舞台芸術、自然体験、創造的なあそびを体験する機会を提供するとともに、青梅市内に25カ所のサークル拠点をつくり、年間660回を超える活動を行っている。

そのほかにも事務所の1階では子どもから大人が気軽に集えるコミュニティカフェ「KTホールぶらりカフェ」を運営している。カフェでは青梅市の子ども食堂の助成金を活用し、子ども（3〜18歳）にランチやケーキ、ドリンクを無料で提供する「子どもFREE CAFE」を実施するほか、毎週火曜日の17〜19時の時間帯に小学4年生から高校生を対象にした夕食付きの居場所を提供する「かくもくの会」を開催し、安心して過ごせる場の提供とともに、学習サポートなどを行っている。

## WAMから ひと言

地域のつながりの希薄化を防ぎ、文化やあそびを通じた新しい地域コミュニティの形成を目的に、地域の子どもや住民とともに多世代交流事業を実施されました。住民の主体性を尊重し、活動を共に作りあう担い手へと成長させる点や、潜在する「あそび」のニーズとそれに応える人々を結び付けた点を高く評価しています。今後は、プレーパークの企画・運営に関する行政とのさらなる連携強化や、他地域への活動波及を期待しています。

さらに、令和4年度からは、同じ小学校区に住む子どもを中心に地域住民が集まり、あそびや文化体験を通して地域の顔見知りを増やすことを目的とした「地域のあそびば事業」を開始している。小学校区の住民によって運営することで、地域住民が互いに顔見知りになり、毎回多くの参加者が集まる活動となっている。

## 新たなコミュニティを形成し、 地域の顔見知りを増やす

同法人は、令和6年度のWAM助成を活用し、「地域のあそびば」近所顔見知り計画「事業」を実施した。



同事業は、「地域のおそびば」を拡充し、新たなコミュニティを形成することを目的に、①地域のおそびば、②身近な地域でアート体験、③実践交流会、④ネットワーク学習会、⑤地域のおそびばプレ企画を行った。事業を実施した経緯について、専務理事・事務局長の林由佳里氏は次のように説明する。

「活動拠点の青梅市は、地域コミュニティの希薄化が進むなか、コロナ禍で学校のPTA活動や保護者会、地域のこども会の活動がなくなるなど、こどもや保護者同士がつながる機会が減少している状況がありました。そのようなか、『地域のおそびば』では、同じ小学校区に住むこどもを中心に多くの地域住民が集まり、活動を通して顔見知りとなり、地域のつながりの輪を広げることになりました。そのため、助成事業では『地域のおそびば』の活動を拡充し、新たな

「地域のおそびば」は、青梅市5カ所と羽村市1カ所の計6カ所の小学校区に拡充し、毎月開催した。開催場所は、各小学校区にある自治会館や集合住宅のコミュニティサロン、運動公園などを活用しており、多くの親子が



◀▲青梅市と羽村市の6カ所で毎月開催した「地域のおそびば」には、同じ小学校区に住む親子を中心に延べ1762人が参加した

コミュニティを形成することにより、安心して暮らせる地域づくりに取り組みました」。

## 6カ所の小学校区で「地域のおそびば」を開催

「地域のおそびば」は、青梅市5カ所と羽村市1カ所の計6カ所の小学校区に拡充し、毎月開催した。開催場所は、各小学校区にある自治会館や集合住宅のコミュニティサロン、運動公園などを活用しており、多くの親子が

参加できるように日曜日（一部土曜日）開催とした。

各拠点の運営について、理事長の岩田恵氏は次のように説明する。

「当法人には青梅市内にサークル拠点が25カ所あり、各小学校区に住む会員の方が中心となって地域に協力を呼びかけながら、『地域のおそびば』を運営しています。活動プログラムや周知方法もそれぞれの拠点で異なり、毎回プログラムを用意する拠点もあれば、公園で開催する拠点では、さまざまなあそび

### 事業概要

助成額

497万8千円



WAM 助成  
e-ライブラリー

### 令和6年度事業

## 特定非営利活動法人 子どもと文化のNPO子ども劇場西多摩

地域のおそびば～ご近所顔見知り計画～事業

### 【事業概要】

地域コミュニティが希薄化するなか、同じ小学校区に住む親子や高齢者があそびや文化体験を通じて交流を図り、顔見知りを増やすことにより、安心して暮らせる地域を目指す事業



### 【実施内容】

- ◆**地域のおそびば**  
あそびや文化体験を通じて地域のつながりをつくる「地域のおそびば」を6カ所の小学校区で開催
- ◆**身近な地域でアート体験**  
こどもたちに舞台芸術鑑賞や文化体験の機会を提供し、「経済の格差」、「体験の格差」の解消を目指す
- ◆**実践交流会**  
「地域のおそびば」のスタッフが集まり、実践するプログラムや運営方法、課題などの情報共有や意見交換を行う
- ◆**ネットワーク学習会**  
スタッフや連携団体などを対象にしたネットワーク学習会を開催し、事業の質を高めるスキルと知識を学ぶ
- ◆**地域のおそびばプレ企画**  
これまで「地域のおそびば」を実施したことのない地域に活動を広げる



### 【成果】

- ◆6カ所で実施した「地域のおそびば」は、年間67回開催し、延べ1762人（実人数180人）が参加した。舞台芸術鑑賞と文化体験（各1回ずつ）には、延べ890人（実人数586人）が参加し、交流を通じてこどもや保護者同士の関係性をつくることにつながった
- ◆3回開催した「ネットワーク学習会」は、スタッフや連携団体、事業に関心のある地域住民など延べ133人（実人数101人）が参加した。青梅市長や市職員、議員の参加があり、活動の意義や必要性を知ってもらう機会となった
- ◆「地域のおそびばプレ企画」では、新たに福生市と日の出町において地域の関係団体と協働して文化体験を実施し、活動を広げることができた



の環境を用意して自由に遊んでもらうスタイルとしています。活動の周知方法としては、小学校や保育所の協力を得て、案内チラシを配布してもらったほか、自治会を通して回覧板で広報しています。

活動内容では、竹馬やコマ回しなどの昔あそび、創作活動、餅つき、水あそび、紙コップタワー、かまどを使ったスूपづくりなど多様なプログラムを行っている。

令和6年度の「地域のおそびば」の利用実績は、6カ所で年間67回開催し、親子を中心に延べ1762人（実人数180人）が参加した。

「餅つきやかまどを使ったスूपづくりなど、食事に関するプログラムには地域の高齢者にも参加していただき、多世代交流を図ることができました。乳幼児を連れて参加する親子も多く、年上の参加者が子どもとあそんでくれるため、母親はスタッフや保護者同士でゆつくりと会話を楽しむ場面もありました。また、両親や父親に連れられて参加するケースでは、餅つきや昔あそびなど父親が活

躍できるプログラムもあることから、子どもが父親をうれしそうにみつめる姿もありました」（林事務局長）。

## 文化・舞台芸術体験の機会を提供

「身近な地域でアート体験」では、子どもたちの「経済の格差」が「体験の格差」とならないように、「地域のおそびば」の活動のなかで文化体験と舞台芸術体験の機会を提供した。

「当法人は、文化体験や舞台芸術鑑賞の活動を重ねるなか、法人内に舞台芸術体験企画部を設け、さまざまなアーティストや講師、活動をピックアップしており、それぞれの拠点が自分たちの活動にマッチしたプログラムを企画しました。プログラムとしては、人形劇や演奏コンサート、マジックショー、Tシャツアート、書道、忍者・殺陣アクションのワークショップなどを行いました」（岩田理事長）。

### 文化体験と舞台芸術体験は、各拠点で

1回ずつ開催し、延べ890人（実人数586人）が参加しており、関心のあるプログラムに参加したことをきっかけに、定期的に「地域のおそびば」に参加する人も多かったという。

## 実践交流会・学習会により事業の質を高める

実践交流会では、「地域のおそびば」の活動がさらに充実するよう各拠点のスタッフが集まり、実践するプログラムや運営方法と課題、地域との連携などの情報共有や意見交換を行った。

「例えば、プログラムの内容で多くの人が集まる拠点多ければ、あえてプログラムをつくらず自由にあそぶ拠点もあります。どちらにもよいところがあるため、どのような拠点にしていくのかを考え、自分たちの活動に反映させています。また、一部のスタッフに負担がかかっているケースもあるため、責任や役割を分担する体制づくりなどについても話しています」（岩田理事長）。

さらに、事業の質を高めるとともに、活動の意義を普及させることを目的に、スタッフや連携団体、事業に関心のある地域住民を対象にした「ネットワーキング学習会」を3回開催した。

### 学習会では、「文化施設の役割」、「コミュニ

ティアートの意義」、「若者が未来に希望がもてる社会」をテーマにした講義を行い、「文化施設の役割」では海外の実践例、「コミュニティアートの意義」では子どもたちへの関わり方、「若者が未来に希望をもてる社会」では生活困窮に陥る若者の現状などについて学んだ。

全3回開催した学習会には、延べ133人（実人数101人）が参加しており、スタッフや連携団体の支援者のほか、青梅市長や市職員、議員の参加があり、同法人の活動や必要



文化体験・舞台芸術体験として、各あそびばではTシャツアートやマジックショー、人形劇、演奏コンサートなど多彩なプログラムを行った



助成事業の成果としては、6カ所の小学校区で「地域のあそびば」を開催し、活動を通じて子どもや保護者同士のつながりをつくり、なじみのある地域で顔見知りを増やすことができた。

## 地域のなかで 顔見知りの輪が広がる

性を知ってもらう機会にもなったという。そのほかにも、助成事業では「地域のあそびばプレ企画」として、これまで開催したことがなかった福生市と日の出町において文化体験のイベントを実施した。

イベントでは、地域の子育て支援団体や子ども食堂などと連携し、福生市では250人、日の出町では100人の参加があり、「地域のあそびば」の運営ノウハウを伝えることで活動が地域に定着することを目指した。



全3回開催したネットワーク学習会には延べ133人が参加した。スタッフや連携団体の支援関係者のほか、青梅市長や市職員、議員の参加があり、活動の必要性を知ってもらう機会となった



特定非営利活動法人  
子どもと文化のNPO  
子ども劇場西多摩  
専務理事・事務局長

林 由佳里氏

## 地域に寄り添った活動として 発展させる

特定非営利活動法人  
子どもと文化のNPO子ども劇場西多摩

理事長 岩田 恵氏



「地域のあそびば」は、身近な小学校区で、子どもたちが歩いて通える場所で開催していますが、同じ市内でも小学校区が異なれば、自治会や子供会、PTA、お祭りなど地域ごとの特色があります。それぞれの地域で継続して開催することにより、その地域ならではのつながりが育まれていることを実感しています。

助成事業では、「地域のあそびば」の活動のなかで、文化体験や舞台芸術鑑賞の機会を提供することで、「経済の格差」を「体験の格差」にしないことにも取り組みましたが、今後も地域に寄り添った活動として発展させていきたいと考えています。

### ◆団体概要

〒198-0041  
東京都青梅市勝沼3-78 KT ホール2F  
TEL: 0428-24-8981  
FAX: 0428-21-3966  
URL: <https://gekijo.hiho.jp/>  
設立: 平成14年4月  
理事長: 岩田 恵



社会福祉振興助成事業に  
関するお問い合わせ

### ●NPO リソースセンター

NPO 支援課 (助成事業の相談・募集、NPO の融資相談等)  
TEL: 03-3438-4756 FAX: 03-3438-0218 (共通)

NPO 振興課 (助成事業の広報、事業評価等)  
TEL: 03-3438-9942 FAX: 03-3438-0218 (共通)

NPO等の民間福祉活動への  
応援よろしくお祈いします!

当機構では  
寄付金を募集  
しています



お問合せ先: 03-3438-0211 (総務部総務課)

なかつたのですが、一緒に遊んで年下の子の面倒をみてくれたり、活動の手伝いをしたいと毎回参加してくれるケースもありました。私自身もまちで声をかけてもらう機会が増え、地域のなかで顔見知りの輪が広がっていることを実感しています」(林事務局長)。

事業の波及効果として、青梅市からプレーパークの運営に関する委託事業を打診されたという。

「青梅市では、新たにプレーパークをつくる計画があり、公園で屋外の活動を中心に行っていた『森もり♪あそぶプレーパーク』と

「地域のあそびば」の参加をきっかけに子どもだけでなく、保護者同士の関係が広がりました。こどもたちは学年を超えて遊ぶことが少なくなつたのですが、一緒に遊んで年下の子の面倒をみてくれたり、活動の手伝いをしたいと毎回参加してくれるケースもありました。私自身もまちで声をかけてもらう機会が増え、地域のなかで顔見知りの輪が広がっていることを実感しています」(林事務局長)。

この著作物は著作権法、国際条約およびその他の知的財産権に関する法律や条約によって保護されています。版權者(独立行政法人福祉医療機構)ならびに著作権者の許可を得ない複製(コピー)、再配布を、固くお断わりいたします。

